

主要科目の特長・科目ごとの目標等

○共創文化学部 国際日本学科

「日本語表現」

日本語に関する基礎知識を修得するとともに、状況に応じて適切に使いこなす能力を修得することを目的とする。具体的には、文や文章の組み立て、語句の意味、用法や表記、言葉の成り立ちや敬語などについての知識を再確認したうえで、様々なスタイルの文章作成を通して表現の特色や言語の役割についての理解を深め、言語感覚を磨いていく。また、社会人として必要な言葉のマナーや「伝わる日本語」を身につけ、言語生活を豊かなものにするための表現力を修得する。

「国際日本学ワークショップ」

現代の日本において継承され、変容している様々な文化事象を学び、世界における日本文化の立脚点について俯瞰することを目的とする。具体的には、海外から招来した異文化の受容と変容、あるいは長い歴史の中で育まれてきた日本特有の精神文化の特色などを観察し、有形・無形の文化遺産をテキストにして日本の文化の総括的な検証を行う。さらに変容する現代の日本文化について理解を深め、世界の中の日本文化という観点から考察する。

「日本の古典文学Ⅰ／Ⅱ」

日本の豊かな古典文学の世界に関する知識を修得し、豊かな人間性を育むことを目的とする。具体的には、上代から中古、中世、近世の著名な作品群のうち数点ないし一点に絞り込んで取り上げ深く考察する。作品を一語一語大切に読み解きながら、古典文学の世界に親しみ、現代にまでつづく「日本文学」の特性について考察を深める。また、当時の文学に表れたものの見方や考え方などについて、自分なりの言葉で表現できる力を身につける。

「日本の歴史と文化Ⅰ（古代）」

日本の古代史を概説し、その歴史的な特質に関する基礎知識を修得することを目的とする。日本古代史に関する基本資料を通じて、奈良時代から平安時代までの政治、社会、信仰、生活、文化の実像について、東アジア世界との関係も視野に入れながら解説し、日本古代の歴史的な特質について理解する。あわせて、史料の読解力や多角的に歴史を考えるための力を身につける。

「現代〈禅〉文化論」

「禅」の歴史と意義を考察することを通して、特に現代の生活において〈禅〉の思想がどのような意義を有するかを深く考察することを目的とする。「禅」に関しては教養教育科目（建学の精神と仏教）においても学ぶところがあるが、本科目では過去の歴史の中の「禅文化」を理解することにとどまらず、現代社会において「禅」が果たしている役割と、また果たすべき役割とを学生自らの考察を通して浮き彫りにし、自らの生活の中に〈禅〉を活かしていく方途を探る。

「多文化共生論」

私たちの周りの「多文化」化に目を向けながら、異なる文化、言語、宗教などを有する人々とのコミュニケーションの現状と課題を考察し、グローバルな時代の生き方や多文化との共生のあり方を考察する。経済、社会、文化などのグローバル化にともない、海外で生活する日本人は今後も増加するであろうし、日本国内で暮す外国人も一層増加することが見込まれる。そこに生じる文化的な摩擦を解決することは今日において重要な課題となっている。このような問題意識のもと、グローバルな社会をどのように生きるかを真摯に考える姿勢を養う。

「英語で日本文化」

日本文化を広く発信するために日本の文化事象を英語で解説できるだけの英語能力の習得を目的とする。日本人が自国の文化を外国からの訪問者に対して解説する必要性は年々増している。その一方で、日本文化を英語で解説することは、日本人にとっても新たな視点で自国の文化を眺める格好の機会となる。当然とみなしている日本文化にはどのような背景があるのか、それを英語で表現する鍛錬を通じ、自身による言語・文化観の陶冶につながることを目指す。

「国際日本文化ゼミ」

国際日本学科の学びを通じて各自が主体的に選んだ研究テーマについて、演習形式での調査・研究・報告を通して日本の文化に関する専門知識を修得するとともに、自分ならではの考えを構築する過程を通して物事を客観的に判断する力や社会に通用する実践力を身につける。日本の文化・文学・歴史・言語等を扱った諸文献を熟読し、履修者の希望する各分野について研究指導を行う。また、関連する現代日本の文化事象についても、必要に応じて鑑賞や体験学習などを実施する。